

第三代、天津彦々火瓊々杵（あまつひこひこほのくにぎの）尊、天孫（あめみま）とも皇孫（すめみま）とも申。

皇祖（すめみおや）天照太神・高皇産靈尊、いつき、めぐみましましき。葦原の中州の主（あるじ）として、天降（あまくだし）給はんとす。

こゝに、其国、邪神（あしきかみ）あれて、たやすく下（くだり）給ことかたかりければ、天稚彦（あめのわかひこ）と云神をくだしてみせしめ給しに、大汝（おほなむち）の神の女（むすめ）・下照姫にとつぎて、返（かへり）ごと申さず。みとせになりぬ。

よりにて、名なし雉（きぎし）をつかはして、みせられしを、天稚彦、い（射）ころしつ。

其矢、天上にのぼりて、太神の御まへにあり。血にぬれたりければ、あやめ（危め）給て、なげくだされしに、天稚彦、新嘗（にひなめ）してふせりけるむねにあたりて死す。世に返し矢をいむは、此故也。

さらに、又、くださるべき神を、えらばれし時、経津主（ふつぬし）の命（櫛取（かとり）の神にます）・武甕槌（たけみかづち）の神（鹿嶋（かしま）の神にます）、みことのりをうけて、くだりましけり。

出雲国にいたり、はかせ（佩く）る剣をぬきて、地につきたて、其上にゐ（居）て、大汝の神に、太神（天照大神）の勅（みことのり）を、つげしらしむ。

その子・都波八重事代主（つみはやへのことしろぬしの）神（今、葛木（かづらぎ）の鴨（かも）にます）、あひともに（両者は）従（したがひ：服従する）申。

又、次の子、健御名方刀美（たけみなかたとみ）の神（今、諏訪（すは）の神にます）したがはずして、にげ給しを、すはの湖（みづうみ）まで、おひ（追ひ）て、せめられしかば、又、したがひぬ。

かくて、もろもろの悪（あしき）神をば、つみなへ（処罰する）まつろへる（服従する）をば、ほめて、天上にのぼりて返（かへり）ごと申給。

大物主の神（大汝の神は此国をさり、やがて、かくれ給（かくり世に去り給う）と、見ゆ。この大物主は、さきに云所の三輪の神にますなるべし）・事代主の神、相共に、八十万（やそよろづ）の神をひきゐて、天（あめ）にまうづ。

太神、ことに、ほめ給き。「宜（よろしく）八十万の神を領（りやう）して、皇孫を、まぼりまつれ」とて、先（まづ）かへし、くだし給けり。

其後、天照太神・高皇産靈尊、相計（はからひ）て、皇孫をくだし給。

八百万（やほよろづ）の神、勅（みことのり）を承（うけたまはり）て、御供につかうまつる。

諸神の上首（じやうしゆ）三十二神あり。

其中に五部（いつとものものを）神と云は、天児屋命（中臣の祖（おや））・天太玉命（忌部の祖）・天鋳女命（猿女の祖）・石凝姥（いしこりどめの）命（鏡作の祖）玉屋命（玉作（たまつくり）の祖）也。

此中にも、中臣・忌部の二（ふたはしらの）神は、むねと神勅（しんちよく）をうけて、皇孫をたすけ、まぼり給。又、三種（みくさ）の神宝（かむたから）をさづけまします。

先（まづ）あらかじめ、皇孫に勅（みことのり）して曰（のたまはく）

「葦原千五百秋之瑞穂国（あしはらのちいほあきのみづほのくに）は是（これ）吾子孫（わがうみのこの）可主之（きみたるべき）地（ところ）也（なり）。宜、爾皇孫就而治（いましすめみま、つき（就任し）てしらすべし）焉。行給矣（ゆきたまへ）。宝祚之（あまつひつぎの）隆（さかえまさむこと）、当与天壤無窮者矣（まさに、あめつちとともに、きはまりなかるべし）」。

又、太神、御手に宝鏡を、もち給（たまひ）、皇孫に、さづけ、祝（ほぎ：言祝ぐ）て「吾兒（わがこ）、視此宝鏡（このたからのかがみをみまさむこと）、当猶視吾（まさに、なほ、われをみるがごとく、すべし）。

可与同床共殿以為齋鏡（ともに、みゆかをおなじくし、みあらかをともにして、いはひのかがみとすべし）」と、の給。

八坂瓊の曲玉（まがたま）・天の叢雲の剣をくはへて、三種とす。

又「此鏡の如（ごとく）に分明（ぶんみやう）なるをもて、天下（あめのした）に照臨（せうりん）し給へ。八坂瓊のひろがれるが如く、曲妙（たくみなるわざ）をもて、天下をしろしめせ。神剣をひきさげては、不順（まつろはざ）るものをたひらげ給（たまへ）」

と勅（みことのり）ましましける、とぞ。

此国の神霊（しんれい）として、皇統（くわうとう）一種ただしくまします事、まことに、これらの勅（みことのり）にみえたり。

三種の神器、世に伝（つたふる）こと、日月星（ひつきほし）の天（あめ）にあるにおなじ。

鏡は日の体（てい）なり。玉は月の精（せい）也。剣は星の気（き）也。ふかき習ひ（決まり）あるべきにや。

抑、彼の宝鏡は、さきにしるし侍（る）石凝姥の命の作（り）給へりし八咫の御鏡（八咫に口伝あり）、玉は八坂瓊の曲玉、玉屋の命（天明（あめのあかる）玉とも云）作（り）給へるなり（八坂にも口伝あり）。剣はすさのをの命の、え（得）給て、太神にたてまつられし叢雲（むらくも）の剣也。